

@幸せな贈り物

ともに 同行

まことの幸せの奥義

登高示遠 成功した人でも、失敗した人でも、同じ贈り物があります。過去、現在、未来…だれにでも同じように与えられた贈り物です。しかし、成功した人は過去を土台だと話しますが、失敗した人は過去を傷だと話します。成功した人は、今日を機会と話しますが、失敗した人は今日をだれかのせいだと話します。成功した人は、未来は心ときめくもう一つの今日だと話しますが、失敗した人に未来というのは、ただ漠然とした期待に過ぎません。人生の幸せと成功を左右する重要な条件があるならば何でしょうか。

アメリカ人 7,000 人を対象に 9 年間、短命な人と長生きする人の差を追跡して調べたのですが、その結果は、とても興味深いものでした。当初の予想とは違って、酒とタバコは寿命と関係がないのではなかったのですが、絶対的な影響を及ぼしてはいませんでした。また、仕事をするスタイル、社会的地位、経済状況さえも、決定的要因になることはありませんでした。長い間の調査のあとで、ついに明らかにされた長生きする人々のただ一つの共通点は、驚くべきことに「ともにいる友人の数」だったということです。ともにいる友人の数が少ないほど、簡単に病気になって早く死ぬ人々が多かったのです。人生の喜怒哀楽をともに分かち合える友人が多く、その友人と送る時間が多いほど、ストレスが減ってさらに健康な生活を維持できたということです。

一方、ハーバード大学の「グラント研究」Grant Study チームは、20 代の若者 268 人が 90 代の老人になるまで彼らの人生と健康に対して 75 年間研究した結果、幸せの秘訣も、結局は家族、恋人、友人、同僚の間の「ともに分かち合う愛」だったということです。そして、成功した生活のためには、経済的豊かさや、社会的特権でなく、幼い時期に愛して愛された経験が重要なことだと現れました。愛されることがなく育った子どもは、愛されて育った子どもより、70 歳で深刻なうつ病を経験した比率が 8 倍もさらに高く、幼い時期に母親と暖かい関係を持つことができない人であるほど、老年期に痴呆になる比率が高く、父親との関係が良くなかった人であるほど、結婚生活が不幸でした。幸せな結婚生活をした研究対象者は、夫婦どうし互いに「頼り」ながら生きているという話をよくしました。お互いの足りなさを埋めてあげるのが幸せの秘訣でした。それで、グラント研究の結果を総合すれば、結局は「ともにいる愛」だけが残るとのことです。

最近のアメリカの報道機関 lifehack Communication は、だれかの真実の友人になりたいなら、決してして

はいけない10の行動に対して紹介しました。「①後でこっそりと悪口を言わない ②人身攻撃しない ③無意味な論争はしない ④対話するとき、話をさえぎらない ⑤目標に対して落ち込むようにさせない。真実の友人は偉そうにせず、建設的で有用な助言をする ⑥過去に対して悪口を言わない ⑦苦しい状況に置かれるようにさせない ⑧成功を嫉妬しない ⑨友人を「判断」したり「修正」しようとしなない。短所がない人はなく、友情はお互いの短所を補完しながらより一層良い生活を見つけるようにさせる ⑩友情に補償を願わない。真実の友人は、職業を失ったり、家族が困難を経験する時のように大変な時期であるほど、背を向けなくて、できる限り誠意を尽くして助けを与えようと努力する。結論的に『私が真実の友人を得るためには、私から真実の友人にならなければならない』と言いました。

聖書は、友人についてこのように語っています。「そむきの罪をおおう者は、愛を追い求める者。同じことをくり返して言う者は、親しい友を離れさせる。」(箴言 17:9)

今、私たちは「ひとつの船に乗った運命共同体」です。国がほろびれば国民もありません。

ともに更新しなければならぬ国民性を越える高いところへ上がって、遠く未来と次世代をながめながら今日を準備する登高示遠の知恵が切実に必要な時ではないでしょうか。

最高の富と栄華を味わったソロモンが告白して言いました「ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが労苦すれば、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起こす。倒れても起こす者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなる。もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。」(伝道者の書 4:9~12)

最高の王と認められるダビデもこのように告白しています。「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れてその衣のえりにまで流れしたたる。それはまたシオンの山々におけるヘルモンの露にも似ている。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」(詩篇 133:1~3)

永遠の幸せのために 神様の願いは人間のまことの幸せで、人間との美しい同行です。それで、神様が天地万物を創造されるとき、最も美しく創造して、最もうれしく思われた被造物が、まさに人間です。本来の人間は、神様とともにいる霊的存在として創造されて、神様が約束された幸せと祝福を味わう存在として創造されました。しかし、サタン(悪魔)の策略にだまされて、神様を離れるようになった人間には、六つの人生の運命だけが残ったのです。人間が解決できない根本問題、成功の後に訪ねてくるむなしさと、繰り返す非理性的な問題、生きていくほど訪ねてくる不安と恐れ、最も理性的で科学的な人間が物にお辞儀をして、木や動物、石をおがみながら、お守りに頼り、幸せを期待する愚かさ。人生の便利さと関係なく訪ねてくるうつ病と精神問題、日に日に増えていく悪い犯罪の繰り返し、増えていく病気で崩れていく健康と人間関係、未来に対する不安と死後の地獄という永遠な苦痛と刑罰に対する恐怖、ここにまた繰り返すしかない不幸の相続…はたして、ないと話すことも、私にはないと否認することもできるでしょうか。

それゆえ、今日も神様の願いは人間の本来の祝福を回復してともにいることです。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」(1ヨハネ 4:9)「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ 3:16)「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ 5:8)

だれでもイエス・キリストを信じる時、神様との永遠な同行が始まります。

わたしは、あなたを地の果てから連れ出し、地のはるかな所からあなたを呼び出して言った。「あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、捨てなかった。」恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

(イザヤ 41:9~10)

「霊的存在」の本質を回復しなければなりません

動物と人間が確かに違う点があります。動物には宗教がありませんが、人間社会には数多くの宗教があります。聖書は人間の創造に対してこのように証言します。

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」(創世記 1:27~28) そして、人間にだけたましいを入れてくださいました。神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。(創世記 2:7) そして、だれでも永遠を慕い求める心をくださいました。神のなさることは、すべて時になくなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。(伝道者の書 3:11) それゆえ、人間の幸せの問題は、条件の問題でなく、本質の問題だと言われます。条件がそろってこそ幸せなのではなく、本質の問題が解決されてこそ、はじめて幸せになるということです。

どんなに幸せを求めてもがいても、なぜ人間には願ってもいない失敗と不幸がずっと訪ねてくるのでしょうか。まさに人間の本質が霊的存在だから、神様との交わりが回復しなければ、理解できない霊的問題と、そこからはじまる人生の問題を解決することができないのです。

人間の霊的問題、根本問題とは何でしょうか。人間が神様を離れた以後に訪ねてきた問題、サタン (Satan) の手に掌握されて苦しみを受け始めた問題が、霊的問題で原罪です。私は何の誤りもないのに、私の家に繰り返して訪ねてくる問題が霊的問題です。その後引続き、精神問題、肉体問題、家庭問題、来世問題、子孫の問題がくるようになります。

霊的問題は神様を離れてはじまったので、神様に会ってこそ解決されます。人の方法では神様に会うことができません。それで、神様が道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストは神様に会う道になってくださいました。(ヨハネ 14:6) すべての罪と呪い、生年月日による運命から解放される道になってくださいました。(ローマ 8:2) サタン (悪魔) のしわざを打ちこわし、その手に捕まって奴隷になっている者を解放する道になってくださいました。(1ヨハネ 3:8、ヘブル 2:14~15) だれでもイエス・キリストを信じて受け入れるとき、神の子どもになって、すべての苦しみとサタンの手から解放されて、霊的問題に勝つようになります。イエス・キリストが私の人生の主人になられるとき、勝利する人生の主人公になります。だまされなくてください。どんな環境、問題の中でも、ともにおられる神様の力を見上げて祈れば、いつも勝利するようになるのです。

見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

(マタイ 28:20)



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

この世でもっとも 美しい祈り



自然の動物と人は、だれでもみんな呼吸をする。呼吸は、空気中の酸素を吸いこんで、からだの新陳代謝を成し遂げて、生命を維持するようにする重要な活動だ。人間は水だけを飲んでも60日生きることができるが、空気がない所では5分も過ごすことはできない。それほど呼吸は人間に必須の活動だ。

人間には肉体的な生活の他にも精神的な生活があって、霊的な生活がある。霊的な生活のために宗教と哲学と倫理的な生活を選んで、より重要な救いの事実のために契約を握る。すべての宗教はその信仰の実践のための行動指針があるが、そのうちの一部分が呼吸とも同じ重要な祈りだ。動物には祈りがないが、動物に劣るように思える人間には祈りがあって、自らの願いを絶対者に申し上げたり、期待することを現わそうとする本能があるのだが、それを宗教性と言う。

すべての宗教には祈りがあるが、それはそれだけ祈りの価値が大きいからだ。どんな祈りでも、そこに心を抱けば信頼になったり、信念になったりして、答えられることが多い。それで、祈りは重要だ。ところで、宗教的属性の祈りは、その対象者により、一般の人たちが知らない霊的な奥義がある。祈ったことが答えとなって成就するからといって事が終わるのではなく、その祈りの後に起きることが、全く違う結果をもたらすのだが、普通の人はこれをよく知らない。すべての宗教の背後には霊的な力があるが、それが普通、神と称する悪霊だ。したがって、祈りという聖なる行為の後に従う苦痛がとても大きく、宗教人が多くの苦しみの中にいるのだ。祈りは正確な対象に向かった明らかな願いが含まれていなければならない。人間の罪と呪いを担われたイエス・キリストは、罪がないのにかけられた十字架の苦しみの中で、

血を流しながら、彼らの罪をお許しくださいと祈られたので、最高の永遠な祈りだと言える。彼が成し遂げられた救いの道に従って、人々はいのちの自由を得て、苦しみから力を得た。今や、まことの祈りを見つけた人々は、思いきり自らの願いを求める祝福を味わっている。祈りも自由にする時の祈りと、危機に会った時の祈りは違う。同じ祈りでも、子どもの無事、安全と健康のためにささげる祈りの重さと、目的成就と成功のために願いを祈る祈りの重さはそれぞれ違う。

本当に切迫した危機の状況で、人のために祈ることができる人は、普段に分かち合いと愛を実践する信仰を持った人であることが明らかだ。本当にそうだったのかと思うだろうが、セウォル号に乗っていた、故キム・シヨンさんは、その死が時々刻々恐れとして迫ってくる絶望の時間に落ち着いて祈った。

「私のクラスの人たち、元気ですか。船上にいる人たちがとても心配です。ほんとうです。ぜひ1人ももれなく安全に行くことができますように、イエス・キリストの御名で祈ります。アーメン」

大人らしさをのがしてしまった申し訳ない大人たちの間で、私たちの耳に聞こえなかった深淵の祈りが、いまは宇宙にいっぱいになって、神様がその祈りを受けられたらう。死骸で受けた答えだったが、もうその祈りが、まことにどんな成就で私たちのそばにいのちとして呼吸されるかは、まだわからない。しかし、一つのことを私たちは確信して感謝する。彼女の祈りは普通の生活を告白する真実であったし、イエス・キリストの御名でささげた彼女のまことの祈りは、神様が受けられる世の中で最も美しい祈りだったということ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)